

# 奔西走



バックナンバーは  
「ときどき日記」  
にあります  
↓QRコード



6年連続で増える市の借金(市資料より)

広報紙に  
載っていない

## 「岡山市のおサイフ事情」

岡山市は広報紙「市民のひろばおかやま」4月号で「岡山市のおサイフ事情」と題し、新年度の予算や財政事情を特集しています。しかし紙面で触れられていない「事情」もあります。

市の借金である通常債残高は、新年度予算で241億円増の2167億円。6年連

### アリーナ、路面の追加予算に反対10人

3月17日、2月定例岡山市議会は当局提案の101議案を可決、日本共産党はうち12件に反対しました。こどもの権利条例や終活支援条例など議員提案の5議案は全会一致の可決でした。

続の増加です。ハコモノに相当する「普通建設事業費」が大森市長のもとで8年前の2倍に増えたことが理由にあります。これには学校エアカン設置など必要なものもありますが、市立幼稚園・保育園の統合や路面電車駅前広場乗入れなどの不要な事業費は見逃せません。

### 2月補正予算には、路面

電車の駅前広場乗入れ経費を総額122億円にまで増やす予算や、アリーナの宣伝資材製作費1000万円が含まれていました。これには共産、みらいえ、一人会派の2議員の計10人が反対しました。市議会議員46人の2割を超える人数です。

高額療養費の上限額引上げの見直しを求める陳情は全会一致で採択され、国に意見書を送ることになりました。

広報紙では「健全な財政!」と書いていますが、その記事でも、収入に対する負債の返済割合である「実質公債費比率」は2年前から増加に転じています。新年度は後期高齢者医療の保険料と学校給食費などが値上げされました。アリーナ税金投入などのムダをやめ、財政はくらし応援にこそ活用すべきです。

### ひとこと

3月2日、芳田公民館文芸化祭の剣詩舞クラブの発表で大鳥圭介作「偶成」を舞いました。維新政府を相手にした五稜郭の戦いを詠んだ漢詩です。剣詩舞の披露は久しぶり。練習がんばります。(東つよし)



# 南区の山火事 住民の苦難軽減へ教訓を

3月23日に発生し、28日に鎮圧が宣言された南区の山林火災。東市議は避難所へ聞き取りを行ったほか、消防団員として現地で活動しました。



東市議の所属する福浜分団は23日の夜中からたびたび出動しました。火が迫る中、住宅を守るために水をまき、消火栓

から水をとると道を塞ぐので夜通し交通整理を行いました。鎮圧後の29日には残火処理に出ました(写真上:東市議)。ジェットシューターという約20ℓの水を入れる袋を背負い、焼けた斜面を登り降りします。わずかな煙を見つけては土を掘り返して水をかける、きつい作業でした(写真下)。



がたくさん見えた消火活動でもありました。

## 岡山・愛媛山火事 共産党が調査

### 避難所に行けない

#### 岡山 交通規制や混雑で

23日に発生し記録が残る中で過去最大の565軒、倉庫など6棟が延焼した岡山市南区の山林火災について、市は28日に「鎮圧を完了した」と発表し、日本共産党の岡山県委員会、県議団、岡山市議団は29日、地域の党員とともに避難指示が出された地域を訪問し、住民から被害状況や困りごとなどを聞き取りました。父親が消防団として消火活動に向かい、深夜2時ごろに帰ってくると話す青年(15)は、24日夜、空まで赤く染める山の様子を自宅から撮影。写真を見た友人から

「やばい。避難しろや」の言葉に「避難できないんだよ!」と返しました。「避難しようとしたけれど、交通規制や、やじ馬のような人の車が多くてどの避難所にも行けず、どうしようとお隣さんと話し合い、逃げる準備をして家にいた」と当時の状況を語りました。「小学生の妹は終業式もなくなくなり、退任する先生もメールで知った」と寂しさを語りながら、鎮圧の知らせに部屋にこもっていた煙をやっ

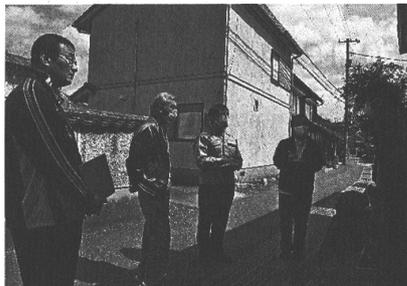
と換気できる」と安堵(あんど)の表情を見せました。小串地区では「自分も周りも大切にするために避難してほしいと声をかけて避難した」などの話も聞きました。植本完治県委員長、森脇久紀県議団長らは「お困りごとがあればいつでも声をお寄せくださいね」と一人ひとりに声をかけました。党市議団は住民の声を聞きながら防災対応の検証を行っています。

3月30日付  
しんぶん赤旗

日本共産党は森脇ひさき県議を本部長に対策本部をもうけ、24日に避難所などへ訪問、29日も住民への聞き取りを行いました(左上記事参照)。

困りごとやご意見はいつでもお寄せください。国会議員、地方議員、地域の党支部の連携で解決に力をつくします。

政府の中央防災会議の作業部会は3月31日、「南海トラフ地震」の新たな被害想定をまとめた報告書を公表しました。岡山では火災の犠牲者数想定が増えました。今回の山林火災の検証は今後の災害への備えにもつながります。



住民(右)から当時の状況や困りごとを聞く植本(左端)、森脇(左から3人目)の各氏ら(29日、岡山市)